

第224回 昭和の森自然観察会

ぴつかぴかの どろだんご をつくろう！

に参加した小学生の絵日記

月日：2010年8月8日（日）

小学二年生 T・T（神奈川県）

きょう、母のしょくばの友人が千ばけんの自せんかんさつしどういんをしていて、しょうわの森で自せんかんさつかいをすると聞いたので千ばけんまで行ってさんかしました。今回のテーマは「ぴつかぴかのどろだんごをつくろう！」でした。

まず、今回どろだんごをつくる赤土がどんな土なのかと、どろだんごはどうしてかたまるのかをべんきょうしました。赤土は「かんどうロームそう」といい、むかしふじ山やはこね火山がふん火してふってきた火山ばいでできていて、長い間に雨やち下水などが風かして、赤くへん色してしまったもので、赤い色の正体はてつさびだそうです。どうして土がかたまるかというと、大(すな)、中(シルト)、小(ねん土)のつぶがしつかりとかたまるからだそうです。かんどうロームそうは大中小のつぶがほぼ同じりよう入っているのでかたまりやすいということもわかりました。

どろだんごづくりがはじまりました。まず、山おくでちょっとしめた赤土をさいしゅし、ねっこや虫やはっぱなどいらないものをとりのぞきました。つぎに、しめた赤土を手のひらでにぎりしめ、かたく丸めて土だいをつくりました。三ばん目は、ちょっとだけ水をつけながら土だいのだんごの形がまん丸でひょうめんがツルツルになるように形をととのえて十分間かわきました。四ばん目は、かわいた土を土だいにふりかけ手のひらでコロコロころがして、ひたすらひょうめんがなめらかでまん丸な土だいになるように丸めてから、さらに十分間土だいを休ませてゆっくりかんそうさせました。五ばん目は、新聞紙をひいて手をその上にこすりつけてねん土だけをとり出して土だいのひょうめんにくりかえしこすりつけました。さいご、かわいただんごをつめなどできずつけないようにちゅういしながらフェルトやストッキングでやさしく、やさしくこすって「そくせきどろだんご」のかんせいです。

一時間というみじかい時間でこんな本かくてきなどろだんごができるなんてビックリでした。ちそうのべんきょうもできたしたのしかったです。

かんせいしたどろだんごをじょうぶにもつとピカピカにするにはビニールぶくろに入れてれいぞうこに入れ、水分が出てきたらふきとつてからさらにみがくといと聞いたので、今、れいぞうこで休ませています。みがくのが楽しみです。

